

公益財団法人 明治安田厚生事業団

第33回 若手研究者のための健康科学研究助成 応募要項

助成の趣旨

明治安田厚生事業団は、1962年(昭和37年)に広く国民一般の「健康な長寿」の実現をめざして設立されました。本研究助成は、財団の設立20周年を記念して、1984年(昭和59年)に“広く健康の維持増進に活用できるテーマ”を課題に発足しました。

これまでの助成状況をみると、応募総数は5,991件にのぼり、そのなかから厳正な審査を経て、助成対象研究572件が選ばれ、助成総額は5億5,650万円に達しました。

本研究助成は、若手研究者の活動支援を目的としており、広く一般の健康増進に寄与する研究課題を対象とします。新進研究者の斬新で独創性に富んだ研究課題のご応募をお待ちしております。

助成の概要

—若手研究者の活動支援—

研究テーマ

- a. 指定課題：運動とメンタルヘルス
- b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究

助成の金額

総額1,500万円

- a. 指定課題：1件につき100万円
- b. 一般課題：1件につき50万円

応募資格

健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方(医学・歯学の学士などを含む)

40歳未満かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
第32回(前年度)受贈者は除外

応募締切

2016年8月25日(木)必着

◎応募要項

① 主 催

公益財団法人 明治安田厚生事業団

② 後 援

日本体力医学会
明治安田生命保険相互会社

③ 選 考 委 員

委員長：福 永 哲 夫（鹿屋体育大学学長）
委 員：井 澤 鉄 也（同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科長）
委 員：小 熊 祐 子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター准教授）
委 員：定 本 朋 子（日本女子体育大学教授）
委 員：新 開 省 二（東京都健康長寿医療センター研究所副所長）
委 員：永 松 俊 哉（公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所所長）
(敬称略・五十音順)

④ 応募資格と条件

健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方(医学・歯学の学士などを含む)
40歳未満(申請時)で、所属する部署の所属長あるいは指導教官等の推薦を受けた方
※ただし、第32回(前年度)の本研究助成受贈者は除く

⑤ 公募研究テーマ

- a. 指定課題：運動とメンタルヘルス
 - b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究
- ※いわゆる疾病の治療そのものに関するテーマは除く
※研究者1人につき、aかbのいずれか1件のみ応募可

⑥ 助成の金額

総額 1,500万円
a. 指定課題：1件につき100万円
b. 一般課題：1件につき50万円
※助成金は、贈呈式当日に交付(予定)

⑦ 応募の方法

所定の申請書ファイルを、研究助成ホームページ(⑬をご参照)からダウンロードして作成してください
作成した「エクセル形式のファイル」と「PDF形式に変換したファイル」をセットにして、事務局メールアドレス(⑬をご参照)にお送りください
※パスワードが設定されたもの、ファイルを圧縮したものは受理できません

⑧ 応募の締切日

2016年8月25日(木)必着のこと

⑨ 選考結果の発表

2016年10月下旬に本人宛書状で通知

⑩ 助成金の贈呈

2016年12月に東京にて贈呈式を開催予定

⑪ 研究成果の報告

助成決定者は研究の成果を短報形式の報告書にまとめ、2018年2月28日(水)必着で提出していただきます(詳細は助成決定後、該当者に連絡)

同報告書は当事業団の発行する健康科学研究助成成果報告に掲載します

なお、対象研究を他に発表する場合は、公益財団法人明治安田厚生事業団研究助成による研究であることを明記することとします

⑫ 留意事項

- a. 採・否の理由についてのお問い合わせには応じられません
- b. 提出された申請書等の書類は返却いたしません
- c. 応募申請書に含まれる個人情報については責任をもって管理し、選考以外の目的に使用することはありません
- d. 営利を目的とする研究や、すでに完了している研究は対象にいたしません
- e. 対象研究については、事前に倫理委員会の承認を得るものとします
- f. 申請内容(共同研究者、目的、方法など)については、やむを得ない場合を除いて改変を認めません(研究テーマの変更は不可)
- g. 助成決定者については、受贈者一覧、対象成果報告、紹介文をマスコミや当事業団ホームページなどに公表します
- h. 助成金はあくまで個人を対象としており、研究機関へのオーバーヘッド(間接経費)は認めません

⑬ お問い合わせと申請書の提出先

- a. 申請書のダウンロード URL: <http://www.my-zaidan.or.jp/josei/entry/index.html>
- b. 申請書の送付先 E-mail: josei@my-zaidan.or.jp
- c. 問い合わせ先

公益財団法人 明治安田厚生事業団 体力医学研究所 研究助成事務局

〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150

TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

(ご参考)

第32回 (2015年度) 若手研究者のための健康科学研究助成受贈者一覧

a. 指定課題 (10件)

(五十音順・敬称略)

氏名	所属	研究テーマ
阿部 巧	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	高齢者における座位運動と脳賦活との関連性
鎌田 真光	Harvard Medical School Brigham & Women's Hospital	大規模地域介入による運動の促進は、地域全体の精神的健康の維持・増進につながるか？ —クラスター・ランダム化比較試験—
北 洋輔	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	子どもの運動の不器用さがメンタルヘルスに与える影響の解明 —メンタルヘルスの悪化予防に向けて—
黄 聡	東北大学大学院 医工学研究科	高齢者における異なる強度の余暇身体活動頻度と抑うつ状態の関連に関する10年間の前向きコホート研究
鄭 松伊	筑波大学 体育系	長期間の運動継続が高齢者の抑うつ (メンタルヘルス) 尺度に及ぼす影響 —運動教室終了後の郵送支援によるランダム化比較試験—
諏訪部和也	筑波大学大学院 人間総合科学研究科	一過性の低強度運動が抑うつ気分と海馬歯状回の機能に及ぼす影響 —高解像 fMRI を用いて—
遠又 靖丈	東北大学大学院 医学系研究科	中年期・高齢期の身体活動量変化が認知症発生に寄与するインパクトの解明 —中年期・高齢期の身体活動で日本人の認知症発生の何%が減少しうるか—
西脇 雅人	大阪工業大学 工学部	アクティブガイドにおけるスローガンの実施・達成がメンタルヘルスに及ぼす影響の検討 —“プラス10”の取り組みは認知症やうつ傾向予防に本当に効果的なのか？—
福島 教照	東京医科大学 医学部	地域在住高齢者における身体活動および地域環境と精神不調の新規発症に関するコホート研究
道下 竜馬	産業医科大学 産業生態科学研究所	職場単位で行う短時間集団運動が勤労者の人間関係、気分、労働適応能力、健康度に及ぼす効果

(以上10件、一律100万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載)

b. 一般課題 (10件)

氏名	所属	研究テーマ
萱場 敦子	東北大学大学院 生命科学研究所	運動による免疫記憶劣化の予防に関する研究
小泉 佳右	千葉大学 教育学部	幼児期における生活リズムを確立するための、身体活動の有効性 —唾液マーカーによる概日リズム評価を用いて—
白土 健	杏林大学 医学部	2型糖尿病マウスにおける慢性炎症反応に対する運動の効果とメカニズム —マクロファージのO-結合型N-アセチルグルコサミンに着目して—
高橋 宏和	Harvard Medical School Joslin Diabetes Center	非アルコール性脂肪肝炎における運動トレーニング誘発性アディポカインの効果検討とメカニズム解析
千木良佑介	高崎健康福祉大学 保健医療学部	虚弱高齢者に対する電気刺激を併用した筋力トレーニングが呼吸機能、運動機能、血管内皮機能に及ぼす影響
土屋 吉史	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科	運動時の環境温度を活かした抗肥満のための運動処方 —褐色脂肪を増加させるマイオカインに着目して—
原田 和弘	国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部	客観的に測定された外出行動が高齢者の身体・心理・認知機能に及ぼす影響とその関連要因
藤田 諒	長崎大学 原爆後障害医療研究所	骨格筋萎縮を制御する新たな分子ターゲットの同定 —骨格筋部位特性に着目して—
山添 正博	滋賀医科大学 アジア疫学研究センター	日常的歩行運動レベルが左心房拡大、心房細動発症に与える影響 —地域住民7年追跡研究—
渡邊 裕也	京都学園大学 健康医療学部	骨格筋超音波画像から算出する筋輝度を用いた骨格筋の質の評価法 —現場で実践可能な筋内組成評価法の確立を目指して—

(以上10件、一律50万円を助成。なお、所属は応募時のものを記載)